

非営利団体・公共団体のための
For non-profits and institutions

Decarbonisation Action Plan for Arts

脱炭素 アクションプラン

この脱炭素アクションプランは、気候正義の原則と最新の気候科学にもとづき、緊急かつ効果的な気候変動対策を行いたいと考えている非営利または公的な視覚芸術セクターの方々のサポートのために策定したものです。

WHO IS THIS FOR ?

対象となる人々

この文書は、ディレクターやボードメンバー、キュレーターや技術者、美術修復家など、さまざまなかたちで芸術文化に携わる方々のために制作されました。

気候変動問題を初めて知った人でも理解できるように書かれたものですが、すでに「環境責任 (environmental responsibility)」に取り組んできた人々にも新たなアイデアや深い洞察をもたらすと確信しています。

環境責任には、何にでも通用する**万能な**取り組みがあるわけではありません。また、私たちが変革を実行しようとするとき、どんな組織にもそれぞれのチャンスがあり、また障壁があることでしょう。

したがって、ここに書かれていることすべてがあらゆる人に当てはまるとは限りません。それでも、このリソースをみなさんのチームや仲間内で広く共有してもらえることを願っています。

気候正義について

気候危機は気候だけの問題ではありません。それは、環境や社会、倫理、政治、そして正義がいま直面している危機と切っても切れない関係にあり、また複雑に絡み合っています。科学やデータ、統計だけを見ようとすると、ときにこの相互関係を見失ってしまいかねません。

そこで気候変動と他の社会的危機との相互関係に注目して取り組もうとするのが、気候正義の基本的な考え方です。

最も大切なのは、気候変動により被る影響は地球上どこでも同じではないという認識を持つこと。多くの場合、地球温暖化がもたらす被害に最も苦しんでいるのは、すでに社会の周縁に追いやられている人々です。障害のある人々や先住民族、難民、女性、そして子どもたち。そうした社会的に排除された人々ばかりが、必要以上に地球温暖化の影響を受けています。

気候正義はまた、世界で最も裕福な国々こそが気候危機の最大の犯人であり、そしてそれゆえに彼らには行動を起こす大きな責任があるのだ、とも訴えています。

GCCでは、気候危機を生み出した側と影響を受ける側のあいだにある不均衡を認識し、自分たちの研究やリソース、ツールを用いてこの不均衡に取り組むとともに、その結果生じるシステム・チェンジにも対処しようとしています。

私たちGCCは、視覚芸術セクターがもたらす環境への負荷を減らすことに重点を置いています。そしてそれにより、気候危機の背後にある相互関係にポジティブな影響を与えることを期待しています。だからGCCはそのメンバーに対し、気候危機とその他の世界的な不正義とがこのような不可分の関係にあることを認識しながら、気候正義の原則にもとづいて行動を起こすことを、コミットメントのひとつとして求めているのです。

THE ISSUES

私たちが直面する課題

国連の気候変動に関する政府間パネル (IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change) は最新の報告書*1で、「CO₂の排出量が増えつづけた結果、気候システムが大きなダメージを受けることになるだろう」として、私たちの地球の未来について厳しい警告を発しています。

最新のIPCC報告書からわかること

1. 大気、海洋、陸地の温暖化は人間の活動が原因であり、それは疑いの余地なく証明されている。
2. 1850年以降の平均気温の上昇スピードは、過去数億年で前例がない。現在の温暖化は史上もっとも深刻である。
3. たとえ明日以降すべての汚染活動を止めることができたとしても、現時点ですでにあまりに多くのCO₂が大気中に存在するため、今後も気温は上昇し続ける。
4. 地球温暖化は世界中の気候システムに影響を及ぼしている。これは数多くの証拠が物語っている。
5. 気温上昇を1.5°C以内に抑えられなければ、私たちが生きているあいだに地球上の数十億人が深刻な被害を受けることになる。
6. いますぐ、緊急かつ積極的なアクションを起こせば、世界をより安全な道へと導き、最悪の気候シナリオを回避することができる。

アートセクターにできること

世界でアートセクターが排出するCO₂の量は、その規模と不相応に多くなっています。その傾向はとりわけグローバル・ノースの芸術文化組織に顕著です。これは、美術館やギャラリーにとって果たすべき大きな責務があることを意味しています（2030年までに排出量を50% *2削減するという目標を達成することはその最低限の責務です）。

そして視覚芸術団体は、並外れてポジティブなインパクトを生み出す可能性を秘めています。豊かな公共のプラットフォームを有し、国民的議論に強い影響を与える力があるからです。気候変動に対する実用的なソリューションを紹介する、気候非常事態の現実を浮き彫りにする作品や声、ストーリーにスポットライトを当てるなど、その強力で特権的な立場を利用して危機に取り組むことができます。ただし、これらのアクションを信憑性のあるものにするには、気候科学に基づいていることを示さなければなりません。

多くの視覚芸術団体が、芸術文化の保存や促進、アクセシビリティに関連したバリューとミッションを掲げています。世界のあらゆる芸術文化にとって、気候危機よりも大きな脅威は存在しません。この問題に取り組むことは、各団体のミッションのひとつとして確実に位置づけられるべきです。

2021年4月、イギリスを拠点とする環境非営利団体Julie's Bicycle (JB) は、AKO財団の委託を受け、視覚芸術セクターが気候変動に与える影響についての報告書を作成しました。この報告書によると、アートセクター

のCO₂排出量（美術館や博物館を訪れる来館者が排出するCO₂e [二酸化炭素同等物] を含む）は全世界で年間7000万トンにのぼると推定されています。なかでも、排出量を削減すべき重要な領域として強調されているのが建築物と輸送です。また、気温上昇を1.5°C以内に抑えるという世界的な目標を達成するためには、視覚芸術セクター全体の排出量を2030年までに少なくとも50%は削減する必要がありますと指摘されています。

*1——IPCC第6次評価報告書 (AR6) 統合報告書 2023年3月発表
*2——2018 / 19年を基準とした数値

ROLE OF GCC

私たちの役割

GCC (Gallery Climate Coalition) は、視覚芸術セクターに特化した環境サステナビリティに関するガイダンスを提供するために設立された慈善団体です。その第一目標は、アート業界が発展しつづけるために、脱炭素とロー・ウェイスト（廃棄物の削減）の実践を促すこと。会費は無料で、環境責任の原則にのっとりアクションを起こす意志のある人なら誰でも参加できます。

世界中のメンバーと連携

GCCの構想は、ロンドンの商業ギャラリーから生まれました。それゆえ、2020年の発足当初はそのコミュニティのみにフォーカスする予定でした。ところが立ち上げ後すぐ、GCCの提供する情報やリソースが、ロンドンや商業ギャラリーの枠を超えて必要とされ

ていることが明らかになったのです。こうした関心に応えるべく、GCCはそのスコープとミッションを進化させ、再定義することに。現在では、視覚芸術に携わる世界中のあらゆる組織や個人に対し、そのサービスを提供しています。

GCCの提携は現在、40カ国以上の800を超えるメンバーを擁しています。アーティストや非営利団体、施設、商業ギャラリー、芸術分野の企業などがその一員です。この国際的な異業種ネットワークが目標や戦略を共有することで、より環境負荷の少ないオペレーションへと専門家コミュニティ全員で協力し合いながら移行することができるのです。

政策提言活動

この分野のステークホルダーをつなぐパイプとしての役割を、GCCは次第に果たしつつあります。ロビーイングやパートナーシップの構築、政策提言を通じて、ステークホルダーのアクションや協力、イノベーション、標準化を促進しています。あまりに大きな課題に対して行動できる時間が限られているなかで、これが唯一の道だと、私たちは信じています。

GCCメンバー総数 (2023年4月時点) 800

メンバーの国の総数 (2023年4月時点) 40

TARGETS

目標について

パリ協定と2030年目標

2015年、パリに集まった196カ国の代表者は、気候変動に関して法的拘束力のある国際条約「パリ協定」に署名しました。パリ協定で掲げられたのは、地球の気温上昇を産業革命前から2°C以内、それもできれば1.5°C以内に抑えようという目標でした。

これはとても重要です。なぜなら1.5°Cというのは、気候科学者によれば、世界が踏み越えてはならない非常に危険な一線だからです。

この目標を達成し、さらには世界の気温上昇を1.5°C以内に抑えるために何が必要なのか——2018年、IPCCの気候科学者たちは極めて重要な報告書を作成しました。それは、「世界は2030年までに、温室効果ガスの排出量を2010年比で少なくとも45%削減しなければならぬ」と結論づけるものでした。

GCCの気候変動目標

GCCでは、2018/2019年の排出レベルを基準として「CO₂e排出量を2030年までに少なくとも50%削減する」という誓約をすべてのメンバーと交わしています。2018/19年の排出レベルから50%削減することとはつまり、2010年比で45%削減することを意味します。GCCがメンバーに対して「2030年までに少なくとも50%削減」を最低目標として設定しているのはそれが理由です。

とはいえ、危機が緊急のものであること、そして2018年以降、世界的に進展が遅れていることを考慮するとともに、GCCメンバーの多くが気候危機に大きく責任を負う国に拠点を置いていることを鑑みれば、最低目標よりも速いペースで排出削減が必要があると

言えます。

GCCには、初めてこの問題に取り組むメンバーも数多くいます。そうした人々にとって「2030年までに50%削減」というのは、達成できそうなファースト・ステップと感じられるかもしれません。その一方で、すでにアクションを開始し、もっと意欲的な目標を設定しているメンバー（とくに非営利団体や公的機関のメンバー）もいます。あるいは、より意欲的な目標を設定している地方自治体や大学の管轄下にあるメンバーもいます。

そんな積極的で経験豊富なメンバーが、より意欲的な2030年目標（たとえば70～90%の排出削減）を宣言することで、ほかのメンバーが勇気づけられ、より高い目標を設定できるようになるのではないのでしょうか。そうして2030年までの7年間に、脱炭素化の新しい機会が次々と現れ、より速く、より遠くへ前進していけることを願っています。

CARBON FOOTPRINT

カーボン・フットプリントに含めるもの

なぜカーボン・フットプリントを計算するのか。それは、アクションを起こす最良の機会を見つげるため、そしてその目標に向けた進捗を確認するためです。すべてを完璧に、詳細に測定する必要はありません。おすすめは、カーボン・フットプリントのなかでもっとも大きな変化をもたらす部分に焦点を当てることです（時間とリソースが限られている場合には特に）。

建物のエネルギー消費、スタッフの移動、美術品の輸送。これが、視覚芸術セクターにおけるCO₂の三大排出源です。これらは測定がそれほど難しくなく、アート関連団体がすぐに起こせるアクションの選択肢がたくさんあります。これらは確実にカーボン・フットプリントに含めるべきです。GCCがオンラインで提供するカーボン・カルキュレーターを使えば無料で見積もることができます。

パッケージングと印刷は通常、エネルギー消費や移動、美術品輸送よりもカーボン・フットプリントが低い分野ですが、気候への影響とは別の重要な環境問題（廃プラスチックや持続可能でない資源利用など）と関連しているため、できるだけカーボン・フットプリントに含めるべきです。これらのカーボン・フットプリントもGCCのカーボン・カルキュレーターで見積もることができます。

なお、小売りやケータリングの調達、スタッフの通勤や来館者の移動は、どちらかといえば営利団体のGCCメンバーよりも非営利団体や公共団体のメンバーに関係のあるものですが、これらは測定が複雑なため、まだGCCのカーボン・カルキュレーターに組み込まれていないのが現状です。目下、これらの排出量をより簡単に見積もれるよう新しいツールの開発に取り組んでいるところですが、それまではこれらをカーボン・フットプリントに含めるのが難しい場合もあるでしょう。とはいえ、だからといって無視できるものでもありません。詳細は「さらなる指針」セクションをご覧ください。

その他の活動（ギャラリーの廃棄物や水の使用、展示用資材、美術品以外の物資の輸送や配送など）は、上記の項目に比べればカーボン・フットプリントに加算される量は少ないでしょう。時間とキャパシティに限りがある場合は、まずはこれらの要素をカーボン・フットプリントから除外することをおすすめします（ただし、その際にも情報の透明性は保つようにしてください）。

GCCでは現在、カーボン・カルキュレーターのアップデートに取り組んでおり、将来的にはこれらの要素のカーボン・フットプリントをより簡単に算出できるようになるでしょう（いますぐにこれらの要素を含めた数値を出したい方には、Julie's Bicycleのカーボン・カルキュレーターをおすすめします）。しかしそれまでのあいだにも、GCCの掲げる「2030年までに廃棄物をほぼゼロに」という目標を達成するため、アート関連団体はギャラリーの廃棄物や展示用資材の量を最小限に留められるよう、ぜひアクションを起こしてください。

5 THINGS TO KNOW

はじめる前に知っておくべきこと

1

あなたはあなたが思うより野心的になれる

状況は急速に変化しています。再生可能エネルギー技術や持続可能な交通手段が急激に安くなり、かつ広がりを見せています。しかもこれは今後数年間で加速するはずで、社会

のあらゆる分野の組織が気候危機に取り組み、これまでは考えられなかったような変化や解決策を次々と取り入れはじめています。自分自身になにができるか、自分の思い込みに挑戦し続けること。それが大切です。

2

すべてをいまず知る必要はないけれど、目標は設定しておこう

私たちは誰も、2030年に世界がどうなるかを正確に予想することはできません。技術や社会、そして気候が急速に変化しているからです。言い換えれば、具体的にどうやって達成するのか正確にはわかっていない目標を私たちは設定している、ということになります。でも、それでいいのです。なぜなら、2025/26年のために合理的な計画を立てることもできるから。長期的な目標に加えて、短期的で具体的な目標と行動計画を立てればいいのです。短期的な目標に焦点を当てれば、いまずぐ行動を起こして目に見える変化を起こすことが可能となるのです。

3

全部ひとりで背負い込むことはない

これらの問題と一緒にあって取り組むために、多くの文化機関が共同プロジェクトを形成しています。連携してリソースやアイデアを共有することで、複数の組織がより迅速かつ効果的に取り組みを推し進めることができます。もちろんGCCもお手伝いします！なにかわからないことが出てきたり壁にぶつ

かったりしたら、遠慮なく連絡してください。いますぐすべての答えを出せるわけではありませんが、連携することで、共通の課題に対する解決策を集団で探し求めることができます。

4 打ち破れない壁はない

低炭素に移行するうえでのいくつかの課題は、多くの分野に共通のもので、そしてその他は視覚芸術セクターに特有のもので、とりわけ業界の規制や規格に起因しています。でもだからといって、すべての課題を解決するのは困難だと思わないこと。気候アクションの勢いは日々絶えず高まっており、ルールの範囲内でも創造的にやる方法が常に存在します。法律や規制だって、その目的に合わなくなったら変更されることもあるのです。

5 あなたの力になるものはたくさんある

Julie's Bicycle や Museums for Climate Action などの多くの組織が、環境責任についての有用なガイドを提供しています。これらのリソースを見れば概要がわかるほか、脱炭素アクションプランの作成方法について、ステップバイステップで学ぶことができます。また私たちGCCも、脱炭素に関連するさまざまなトピックについてより詳細な情報を得ることができるリソースを紹介していきます。

5 STEPS 脱炭素への5ステップ

ステップ1: グリーン・チームまたはグリーン・アンバサダーを決める

環境責任に専念するチームを内部で立ち上げる。そうすれば、持続可能性を重視する文化を組織のなかに浸透させることができます。意思決定のすべての段階で環境を考慮するのが当たり前になるためにも、これは重要なステップです。

ステップ2: 排出量を計測する

2030年の目標を設定するために、まずは出発点を見定めてください。私たちがGCCのメンバーに2019年の年間CO₂排出量を計算するよう求めるのはまさにこれです。その数値が、あなたの出発点となります。

ステップ3: データを分析する

カーボン・フットプリントを計算したら、次はあなた自身に、またはグリーン・チームかグリーン・アンバサダーに以下のような質

問をしてください。
「自分のカーボンフットプリントで最も大きいものは何だろう？」
「変革を起こせる主要な部分はどこだろう？」
「自分の結果はGCCの他のメンバーと比較してどうだろう？」
「障害となっているのはどこで、それにどう取り組めるだろうか？」

ステップ4: 削減目標を設定する

遠い未来の目標に向けて計画を立てるのはすこし難しいかもしれませんが、その場合は、2030年の達成へと向かう旅の中間地点でクリアしたい目標を設定してみてください。

ステップ5: 変革を実行する

排出量を計算し、目標を設定したなら、残るはひとつ。行動を起こし、変革を実行するのみです。まずはあなたの組織のグリーン・チームと一緒に、自分たちに何ができるか、優先順位を決めながらリストアップすることから始めてみてください。そして、変化を生むために必要な時間とリソースをそれ

ぞれに割り当ててください。

例えば、既存の業務プロセスにカーボン削減を組み込む(例: 今後の展示やイベントのプランを議論する際、最初からフライトや航空輸送について話すようにする)、新しいプロジェクトを立ち上げる(例: 建物のエネルギー監査を実施する)などが考えられるでしょう。

大切なのは、直面する課題の大きさに圧倒されて、行動を諦めてしまわないこと。どこから着手するかを決めて、まずは一歩踏み出してください。

短期的な削減効果をもたらすアクションと、より長期的な変化をもたらすアクションの両方を組み合わせて実行することを心がけてください。そして、カーボン・フットプリントの最大の部分を無視しないように。小さな排出源についての議論で身動きが取れなくなるような、注意してください。もちろん、次のイベントでペットボトル飲料を使わないようにしようと話しあうのももちろん大事ですが、それよりもはるかに、航空便を減らす方法について話し合うほうが重要なのです。

GCCカーボン・カルキュレーター

私たちは、オンラインで使いやすいGCC独自のカーボン・カルキュレーターを開発しました。このオンラインツールは、アート関連団体がただちに行動を起こせるよう、視覚芸術において最も重要な排出分野である輸送、飛行機、建物の消費エネルギーに焦点を当てています。そのため、これらの排出量は簡単に測定することができます。また、比較的カーボン・フットプリントが低いいくつかの分野についても、おおよその値を見積もることができます。

オリジナルの文書はGCCのウェブサイトにて配布されています。



発行: 2023年9月
日本語版制作: 特定非営利活動法人
アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT]
編集: 木下悠 デザイン: 峯崎ノリテル ((STUDIO))

www.a-i-t.net